平成23年9月30日付け『北海道医療新聞』に、道民医療推進学講座・神津助教の記事が掲載されました。

H23年3月、札幌医科大学の医学部1～6年生全員を対象に行われたアンケートの解析結果について書かれています。

キャリア形成後か一定期間なら肯定

地域医療従事 学生アンケート

札医大

札医大の医学生が目指す医師像はプライマリケア医と専門医が半々で、地域医療には八割超がキャリアを重ねた後または一定期間であれば「従事しても良い」と考えていることが、同大道民医療推進学講座による初のアンケート調査で分かった。地域医療の実践で最も求める条件は、周辺地域の他医療機関による協力と答えている。

ことし三月、医学部一～六年生全員に、「将来の進路」をテーマにアンケートを実施、五八％に当たる三百六十八人から回答を得た。

『自分は「プライマリケア医」「専門医」のどちらのタイプか』は、それぞれ五〇％。『希望診療科』（複数回答）は「一般内科」百九十二人、「小児科」百十六人、「専門内科」百十一人、「救急救命」七十九人、「産婦人科」七十人の順だった。

『働きたい都道府県』で「本道」を選んだのは、道内出身者（二百七十二人）八九％、道外出身者（八十五人）三五％。

『働きたい病院規模』で卒後十年目までは「四百床以上」と五割が答えており、二十年、三十年とキャリアを重ねるにつれ、地域中核病院（二百床以上）、一般病院、診療所、開業の割合が高まってくる。『働きたい都市規模』も若い時は半数が大都市を好むものの、年齢とともに中規模、小規模の市町村も選択肢として増えてくる。

『地域医療への許容度』は、「キャリア形成後なら従事したい（しても良い）」四四％、「一定期間で済むならば従事しても良い」四〇％で計八割を超え、「避けたい」九％、「若い時から積極的に従事」五％、「ありえない」二％だった。

『地域医療の従事に求める条件』として、「キャリア形成後なら従事したい（しても良い）」と「一定期間で済むならば従事しても良い」の回答者の各七割が「協力の得られる医療機関・医師」、五割が「子どもの教育環境」を選んだ。

五年生が、卒業後の初期研修先として「ありうる」「可能性が高い」と答えた割合（複数回答）は、札医大九〇％、他大学一九％、その他（民間など）九五％。しかし、初期研修修了後については札医大一〇〇％、他大学三〇％、所属しない三五％となり、母校講座へ所属したいとの意向が強まった。

調査をまとめた神津英至特任助教（内科学第二講座兼務）は、地域医療従事に対して「腕を磨いた卒後二十年以降、肯定的に受け止める回答が目立った。地域の他医療機関の医師と連携を求める声が多く、孤立しない環境整備が医師不足対策の一つ」と問題提起している。

地域医療の従事に求める条件

	キャリア形成後なら	一時的なら
協力の得られる医療機関・医師	77%	77%
子どもの教育環境	54%	51%
自分の専門知識・技術の活用	54%	33%
学会出席など勉強の機会	43%	31%
給与	41%	48%
気候や自然環境	30%	23%
住宅環境	28%	25%
都市部への交通アクセス	40%	46%
休暇が取れる	40%	45%
家族の同意	40%	36%
同じ診療科の医師が複数いる	36%	41%
土地柄（住民気質）	32%	33%
期間が限られている	15%	69%
研究時間の確保	11%	7%

北海道医療新聞社許諾
平成23年9月30日掲載